

グリーンサークル 54号

クローズアップ

活動団体紹介

講座イベント紹介

多摩しみどりのかわら版

内野 秀重

原峰の会

子どもの日 竹遊び

市ノ瀬 聡



キツネノカミソリ

～クローズアップ～

東京の植物台帳づくりがはじまった

— 「植物誌」の整備された多摩市を参考に—

都立大牧野標本館特任研究員・パルテノン多摩植物観察会講師 内野 秀重



多摩ニュータウンの一角にある長池公園に長らく勤務させていただきましたが、この4月より都立大牧野標本館にて、東京の野生生物種目録づくりに関する仕事に従事しています。東京都は、日本経済の中心地でありながら、亜高山帯から沿岸域、そして島しょ部と多様な自然環境

に恵まれ、世界的にも稀有な大都市とよく言われますが、その東京にどのような動植物が何種類生育・生息しているのかははっきりと答えられないのが実情です。とりわけ植物に関しては、東京都は全国で唯一「植物誌」が存在しない都道府県となっっています。これは、都内に自然科学系博物館がきわめて少ない→自然系の専門家（学芸員）が育たない→社会への自然情報の普及啓発が停滞する、といった悪循環がおよそ1990年代以降に定着してしまったことが根本的な原因だと考えています。こうした状況は生物多様性の保全を検討するうえでも由々しき事態であることから、東京都は野生の生きものの目録や実態等を整理した「東京いきもの台帳」を今年から5年間を目途にとりまとめていく事業を開始したのです。このプロジェクトは、文献や標本などの収集と分析、専門家調査だけでなくスマホアプリを活用した一般の方も参加できる調査などから構成されていますが、紙ベースで目録を作るだけにとどまらず、蓄積と更新可能なデータベースを構築し、WEB上で随時公開を行っていくなどの目標を掲げています。

このような経緯から牧野標本館では東京都とタイアップし、植物目録作成事務局を担って活動を開始、牧野富太郎採集をはじめとした多くの東京産の植物標本の解析、新たな植物情報の収集、情報が不足している地域等での調査の実施等、さまざまな角度か

ら業務を組み立てているところです。翻って多摩市に目を転じると、本年亡くなられた植物研究家である畔上能力氏が育てた植物観察会があり、多くの植物愛好者が育ち、市内の植物誌もすでに2種類が刊行されています。それらの活動を支えるパルテノン多摩は複合文化施設として自然史にも対応し得る学芸員が在籍し、多摩地区の多くの貴重な植物標本も収蔵されています。冒頭に東京の自然史研究の遅れを嘆きましたが、多摩市はその例外として、南多摩地区の自然史研究を牽引してきたのです。東京の植物台帳づくりを今後進めるうえでは、牧野標本館が奮闘しなければいけないことはもちろんですが、残念ながら人も予算も足りていないという現状もあります。区部に多摩地区、そして島しょ部とそれぞれの地域で植物に関心のある人を育て、協力し合わなければ成し得ない事業であることは明らかです。牧野標本館でも、多摩市でのこれまでの成果に学ばせていただきながら、東京の植物目録をつくる過程で、地域の自然をもっとも端的に反映した植物に関心を持つ愛好者が一人でも増えるよう、植物台帳づくりに多くの方が関心を持ち、また参加できるような機会や場を設けて取り組んでいきたいと考えています。とりわけ多摩市民の皆さまには、この活動へのご理解とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

八王子市で生育が再確認された
東京都の重要植物「カリヨセウツギ」

～活動団体紹介～

原峰の会

原峰の会 代表 實 武彦

1. 原峰公園を管理するに至った経緯

こんにちは。森木会 14 番目の登録団体になる原峰の会です。会員は 17 名。会を立ち上げるきっかけは、昔、息子と遊んだ近隣の原峰の雑木林があまりに荒れ果てていた事です。なんとかして欲しいと多摩市公園緑地課に言おうと思い、ホームページを見て、森林ボランティア活動を知りました。すぐに初級講座を申し込み研修に参加していく中で感じた事は、伐採、萌芽更新、下草刈り等、人の手を加える事で山が生き返る事ができる事。また他の会の活動に参加、お話を伺い、改めて多摩市の人・自然の魅力を知る事が出来ました。地域が一体となり保全活動に取り組む姿を見て自分でも何かできないかと考えました。

そこで先輩の勧めで「雑木林の管理活動リーダーのノウハウを学ぶ」中級講座を受ける事となりました。研修の中で、グリーンボランティア活動の 4 原則①自ら進んでやる(主体性)②多くの人と協力する(連体性)③より良い社会を作る(創造性)④精神的満足感(無償性)を学び「こんな活動を地域の皆でやりたい」という思いが湧いてきました。そこで出会った方が最初の原峰の会のメンバー 4 人です。



2. ゆっくりとスタート。みんなの意見を聞き合意形成を図る

会の発足に最低 5 人が必要という事で近所の知人に声をかけました。森木会元会長、川添さんの GLC 活動(会に属さない講座卒業生)に参加しながら先輩に色々な意見を聞きました。そのうちメンバーも増えていきました。令和 5 年 7 月 2 日、仮名「原峰を愛する会」とし、最初の集まりを「和桜」で開きました。8 人からのスタートです。まずは原峰公園に対する思いを皆に聞きました。昔の様に整備され家族で散策できる公園、現状の自然をそのままに残し整備された公園、池や橋を生かした公園、花や植物、昆虫が生息する公園等、

色々な意見が上がり、又公園に対する一般の人の声(ネット)も参考にしました。原峰公園は昔、雑木林と果樹園、田んぼがある谷戸の風景がある里山でした。そこで 5 年後、10 年後に向け自分達で「原峰公園の目指す姿」を作りました。他の会への活動参加や谷戸を整備した場所の見学等で親睦も深めました。

3. 会の発足に向けた歩み。個々の個性を生かす活動とは

次に会の発足に必要な市への、協定書作成、年間計画書作成、役員名簿、会則の作成、保険の加入、予算の策定など殆ど自分だけで行っていました。形式上、代表、副代表、総務など作成しましたが、副代表から「みんなで分担し行いましょう」と言われ、会計、広報、備品などお願いする事となりました。早速、メンバーから会のロゴのアイデア看板作成したい、備品の予算はどうする等、どんどん計画が進んでいきました。日々の作業計画や助成金申請も副代表を通じ、今後作成していく予定です。みんなが活動できる環境を作るのも代表の大事な仕事と痛感する日々です。



4. 活動内容?やりたい事と出来る事は違う、一つ一つ解決する

市との協定の中で活動エリアを公園全体(3ha)のうち約半分のエリアにした。場所は ①元々梅林だった梅のエリア②池とせせらぎの谷間のエリアです。理由は ①全体の 4 分の 1 の雑木林エリアを伐採・管理する技術がまだない事②全体の 4 分の 1 の植栽エリアと原っぱエリアには手が回らない事 課題は①公園全体を外部からの竹の侵入で光が入らず、薄暗く梅が枯れている。②池やせせらぎ周辺がアズマネザサ・雑草、土砂の流入で流れを失っている等。まず竹の伐採から始めたが、再利用しようと(地産地消)で竹の落ち葉囲いを作った。右上はみんなの達成感が溢れる写真です。



みなさんの生き生きした顔が、作業の達成感を物語っています！

～講座イベント紹介～

こどもの日 竹遊び 自然素材の竹を使った工作と遊び

森木会クラフトプロジェクト どんぐり山を守る会 細川 正男

5月5日(日) こどもの日に恒例となったこどもひろば OLIVE とのコラボレーションによって「竹とんぼで遊ぼう」を開催しました。今回は森木会の皆さんがたくさんお手伝いに来られ、子供たちと楽しく関わって下さいました。

参加者は主として小学生を対象としたので、参加する子どもたちの年齢を考慮して、今回は途中まで加工した材料を用意しました。親子と一緒に竹とんぼのバランス(左右の羽の重さ)を調整した後、周囲に人がいないことをしっかり確認し、飛ばしてみると、風に乗って空高く飛ぶ竹とんぼを見て、歓声をあげて楽しんでいました。

子どもたちが笑顔で飛ばすのを見ると、やりがいを感じると同時に、これから私たちもまだまだ竹とんぼづくりを続けていきたいです。

5. 継続的に活動する為の課題

森木会に正式に加入する事になり、運営会議、先日は安全管理担当者会議に参加させていただきました。各団体に報告や作業上の管理や工夫、担当者の安全を守るため、安全上のガイドラインの説明を聞きました。我々はスタートしたばかりの初心者です。まず基本を守り、活動計画を守り、お互いにコミュニケーションを図り、風通しの良い環境作り、技術を上げる事で効率ではなく安全を優先した活動をしなければなりません。その中で原峰公園を通し、地域と自然を結びつける役割ができれば良いと考えています。

竹とんぼは空へ飛ばす遊び道具です。おじいさんやお父さんに幼い頃作ってもらった覚えがある人もいるでしょう。仕組みは単純なものです、何故か時間を忘れて没頭できる魅力をもったもので、竹とんぼが誕生してから、日本の子供の遊びとして欠かさない存在でした。上手く飛ばせないうちは自分の顔に当たって痛い目を見た覚えがあるのではないのでしょうか。

最近は竹とんぼに触れた事のない子供も多くなりましたが、様々な遊び道具がある今だからこそ、シンプルだけど奥深い竹とんぼに触れてもらい、その楽しさを知って貰いたいですね。

次回はのこぎり、ナイフを使って、自分で作ったオモチャで遊ぶ体験を中心とした竹とんぼ作りに挑戦してみたいです。

今回も好評だったので、この企画は今後ずっと継続していきたいです。



楽しく遊べるお手伝いをいたします



竹ぼっくり 先輩のお手本を見ながら、出来ましたね！

～多摩市みどりのかわら版～

環境の拠点をめじたグリーンライブセンターについて

多摩市環境部 地球温暖化対策担当課長 市ノ瀬 聡

今年4月より、グリーンライブセンターの担当となりました、多摩市環境部の地球温暖化対策担当の市ノ瀬と申します。

環境部門に平成12年に移動し、ごみ関係で19年、環境部門で6年となります。公園やみどりの分野は初めて受け持つ分野となり、皆様からのお話を伺い、毎日、勉強しながら業務を行っています。

多摩市では、「気候危機」という言葉があまり一般的でなかった令和2年6月に気候非常事態宣言を表明し、「地球温暖化対策」、「プラスチック削減」、「水とみどりの保全」の3項目を推進していくことを宣言しました。

近年の気候変動は、世界規模の気象災害や環境への影響が顕著になってきた中で、国内でも豪雨や猛暑等、身近なところで、生き物やみどり、私たちの暮らしにもその影響が出ています。

これまでの環境分野では、地球温暖化やエネルギー、水・みどりなど、それぞれの分野で課題を解決するための取組を進めてきましたが、環境問題は、様々な課題が互いに影響し、出てくる結果であり、一つの課題だけに取り組んでも、根本解決には繋がりません。

多摩市は、気候危機に取り組むためには、地球温暖化対策やエネルギー、生物多様性や水・みどり等、連携して取り組む必要があると考えています。

気候変動はこれまでの生態系も脅かします。生態系を育むみどりや生物多様性が豊かであれば、気候変動による影響を緩和し、もとの自然環境に戻してくれる調節機能を持ちます。

気候危機を防止し、持続可能な社会へ転換するため、市民と気候危機を共有し、行動を起こすきっかけを作る。そして、様々な課題に対し行動を起こした市民とともに、取り組んでいく必要があります。

みどりや生物多様性の大切さを共有し、地球環境問題を解決し、持続可能な社会を創っていくためには、グリーンライブセンターの市民協働で進めてきたみどりの拠点に加え、環境の拠点としての機能が必要になると考えています。美しい地球環境を、未来を担う子どもたちへ継承していくために、皆様とともに取り組んで参りますので、よろしくお願いたします。



編集後記 ふたつとないもの

先日4回目の富士登山を終えました。頂上までの道のりは長く厳しいですが、何も考えずひたすら自然に身を任せ登り進める中で得られる景色、達成感は最高のストレス解消です。

そんな中、最近「森林限界」の標高が高くなったような気がしています。森林限界とは、2000mを超える高山に形成される森林の限界線を言いますが、初めて富士山に挑戦した9年前は、8合目より上にはオンタデすらも生えていなかった記憶です。しかし、今年は9合目付近で見つけました。

そもそも「合目」という単位の所説もはっきりしないため、何とも言えませんが、いつか富士山は溶岩の山でなく植物で覆われる山になってしまうのかもしれないかもしれません。



オンタデ

表紙の絵

「キツネノカミソリ」絵・内城葉子

名前の由来は葉の形がカミソリの刃に似ているからとか。もうカミソリの刃と言われてもピンとこないかもしれませんね。

<プロフィール> 1949年東京生まれ。1986年国立科学博物館第2回植物画コンクール文部大臣奨励賞、1989年世界らん展ボタニカルアート部門ブルーリボン賞、英国王立園芸協会ロンドン・フラワーショーGold Medal 受賞など

<所属> 日本ボタニカルアート協会、日本植物画倶楽部、どんぐり山を守る会代表

<著書> 「鏡の中-俳句と植物画」共著、2005年新風舎。他、絵本や学習図鑑などに描画。雑木林などの活動を通じ、実際の木々や草花に触れることが細部に及ぶ精密な描写となり、植物本来の温もりを感じられる作品が特徴。

多摩市グリーンボランティア通信

グリーンサークル 54 号

発行日：2024 年 7 月 31 日

編集・発行責任：

多摩市グリーンボランティア連絡会 事務局

〒206-0033 東京都多摩市落合2-35 多摩中央公園

多摩市立グリーンライブセンター内

電話 042-375-8716 FAX 042-375-0087

ホームページ <http://www.keisen.ac.jp/tglc/>